



長尾小学校だより 運動会特別号

令和8年（2026年）6月15日 宝塚市立長尾小学校長 高橋 剛

～運動会保護者アンケート結果のご報告とお礼～

初夏の候、保護者の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動に多大なるご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

先日の運動会では、子どもたちへ温かいご声援と拍手を送り続けていただき、誠にありがとうございました。皆様の温かい眼差しに見守られ、子どもたちは練習の成果を存分に発揮することができました。運動会終了後に実施いたしました「保護者アンケート」には、200件を上回る非常に多くのご回答と、胸が熱くなるような丁寧なメッセージを頂戴いたしました。皆様からいただいた貴重なお声を教職員一同で大切に読み合わせ、共有いたしました。感謝の気持ちを込めまして、アンケートから見えてきた子どもたちの成長の足跡と、次年度に向けた学校の取り組みについて詳細にご報告いたします。

1. 【運営と観覧環境】保護者の皆様のモラルに支えられた新しい運動会

① 「2部制・コンパクトな進行」への高い支持

- ・ 「年々暑さが厳しくなる中、午前中でさっと終わる構成は、子どもたちだけでなく見ている保護者や祖父母、小さなきょうだいにとっても体力の消耗が少なくて本当にありがたかった」というお声を圧倒的多数いただきました。競技数を絞り、プログラム間のインターバルを最小限に抑えたスピーディーな展開についても、「間延びせず、子どもたちが最後まで集中力を切らさずに最高のパフォーマンスを発揮できていた」と好意的な評価をいただいています。

② 「ゆずりあいスペース」で見えた優しさと、次年度への課題

- ・ 嬉しかったお声として「自分の子どもの学年のタイミングで迷わず前方に移動でき、ベストポジションでシャッターを切れました」「周りの保護者の方が『どうぞ』と前を譲ってくれたり、後ろの人のために自然としゃがんで配慮してくれたりして、長尾小の保護者の皆様の温かさに感動しました」など、皆様の素晴らしいモラルによってこのシステムが美しく機能しました。
- ・ 見えてきた課題としては、「最前列を確保された方が終始立ったまま撮影されていたため、後ろが全く見えなかった」「前方の撮影エリア内で日傘をさす方がいて、カメラのフレームに入り込んでしまった」という具体的なお困りの声も数件頂戴いたしました。

③ 次年度への改善

- ・ 保護者の皆様が気持ちよく応援・撮影ができるよう、次年度は事前のおたよりで「撮影エリア（前方）は完全着席必須」「同エリア内での日傘使用は終日禁止」を明確にしていきます。さらに、プログラムの合間だけでなく、各競技が始まる直前のアナウンスでも「前列の皆様、お座りいただいているか今一度ご確認ください」と都度呼びかける運用を徹底してまいります。

2. 【児童の主体性】「自分たちで創り、支え合った」グラウンドのドラマ



今回の運動会で多くの保護者の皆様の評価が高かったのが、高学年を中心とした子どもたち自身による「主体的な運営」と「思いやり」の姿でした。

① 家庭でも大ヒットした「児童考案スローガン」

- ・ 子どもたちが計画委員会を中心に考案したキャッチーでユニークなスローガンが、子どもたちの心を強力に引き付

けました。「今年のネーミングが面白く、子どもが気に入って家でも何回もリズムカルに言っていた」「スローガンを児童たち自身で創ったプロセスが素晴らしい」と大好評でした。紅白の得点制や応援団を縮小・廃止した形式であっても、このスローガンが「勝っても負けても、みんなが笑顔で最後まで頑張る」という高いモチベーションと一体感を生み出す、新しい運動会の軸となってくれました。

② 「先生の存在感がない」と言わしめた、子どもたち自身の実況・放送

- アンケートの中で、私たち教職員にとって何より嬉しかったのが、「放送や進行を子どもたちだけで行っていて、いい意味で先生の存在感がなく、子どもによる主体的な運動会を実現しているのを感じた」というお言葉です。計画委員会の堂々とした初めの言葉や終わりの言葉をはじめ、マイクの前に立った放送委員会の児童は、ハキハキと言葉を届けるだけでなく、運動会の注意事項やリレーでの実況中継を臨機応変に行っていました。さらに、順位のないリレーにおいて、「4位に終わったクラスに対して、その頑張りを心から称える温かい応援実況」を放送委員会の判断で入れ、会場全体を温かい拍手で包み込みました。勝敗を超えて仲間を思いやる子どもたちの自治の力に、私たち大人も深く学ばせてもらいました。

3. 【学年の足跡】グラウンドで輝いた、子どもたちの確かな成長

(1) 1年生【小学校最初の舞台、身体いっぱい「楽しい!」】

- 毎日の練習でクタクタになって帰ってきても、家でダンスを嬉しそうに披露し、空手のポーズや可愛いシャッターポーズを何度も見せてくれました。自分の位置への移動が上手いときは、自分で「どうすれば間に合うか」を一生懸命考えている姿もあり、大きな成長を感じさせました。
- 「みんなアイドルだった!可愛すぎる」「綺麗に整列して落ち着いて他学年の競技を見学できており、集団行動の基礎がしっかり身につけていて驚いた」と、その愛らしさと立派な態度に拍手が送られました。



(2) 2年生【1年の歩みもたらした「安定感と自信」】

- 学校から配付されたタブレット端末を活用し、自宅で自ら音楽を再生しながら熱心に振り付けを覚えるなど、自主的に楽しんで練習を重ねていました。
- 「1年生の時より遥かに物おじせず、堂々と楽しそうに踊っていて1年の成長を実感した」「他の子が走っている時もクラス関係なくしっかり応援していた」と、周囲を思いやる視野の広がりも、多くの保護者様の目に留まっていました。



(3) 3年生【自己から集団へ「クラスの固い団結力」】

- 日々「今日はここまで踊れるようになったよ!」「リレーで何番だったよ!」と家庭での会話が弾んでいました。「当日、体調不良で残念ながら参加が難しくなってしまったお友達がいたのですが、『その子の分までみんなで力を合わせるんだ!』と家で話してくれたとき、クラスの固い団結力を感じて涙が出ました」という感動的なエピソードも寄せられました。
- 流行の楽曲に合わせたダンスでモチベーションが最高潮に達し、「踊りやリレーへの整列、移動の行動がさっと素早くなり、昨年からの成長に圧倒された」との声が寄せられました。



(4) 4年生【高学年へのステップ「自律と相互協力」】

- 短期間の練習にもかかわらずやる気に満ち溢れ、走るのが苦手な子も「今回は抜かされずに走り切れた!」と、大舞台での成功体験が大きな自信へと繋がりました。
- 精神的な成熟が随所に見られました。「隊形移動で場所を間違えている友達がいると、周りの子が放っておかずに

そっと声をかけて誘導していた」「自分を律して毅然と並んでいる姿に4年生らしい心の成長を見た」と、児童間での助け合いが高く評価されました。

(5) 5年生【高学年としての責任感と「静と動」の圧倒的気迫】

- ・ 計画委員としてスローガン呼びかけやポスター作りに自ら名乗りを上げるなど、主体性が大きく育った学年です。
- ・ 伝統の『エイサー』の演技に対し、最大級の称賛が集まりました。「最初の掛け声の気迫に鳥肌が立った」「腰をしっかりと落とし、しんどい姿勢をキープする姿に高学年としてのプライドを感じた」という声が多く、また演技のクオリティだけでなく、ハチマキを互いに手伝って巻き合うなど裏での優しさや、盛り上がる場面と静かに待機する場面の「見事な切り替え」が絶賛されています。「演技の途中で頭の紫の布が落ちてしまったのですが、その子は全く慌てることなく、演技を一切止めずにやり切り、最後の最後にさっと拾い上げました。その強い自覚と責任感に震えるほど感動しました」という素晴らしい瞬間も報告されました。

(6) 6年生【圧巻のクオリティ、最高学年の「背中」】

- ・ 「最後の運動会を最高の思い出にする」という強い覚悟が競技からひしひしと伝わってきました。特に『ソーラン節』においては、腰を深く落とすキレのある動きを追求し、筋肉痛になりながらも家庭で猛練習を重ねていた様子が報告されています。
- ・ 「力強い走り、まとまり、衣装の格好良さ、すべてにおいて迫力と気合いが違った」と、他学年の保護者からも羨望の眼差しが向けられました。「6年生の迫力ある演技を見て、我が子が将来あのような立派な姿になるのかと思うと、これからの学校生活がより一層楽しみになった」という記述が複数あり、学校全体の象徴としての役割を完全に果たしていました。同時に、「これほど素晴らしい演技なら、2部制で制限せず、全校児童や全保護者が同時に見られる仕組みが欲しかった」という要望が出るほどでした。

4. 今後に向けていただいたご意見

今回のアンケートでは、今後の運動会をよりよくしていくための貴重なご意見も多数いただきました。具体的には、「種目をもう少し増やすことで、さらに見応えのある運動会になるのではないか」「玉入れや綱引きなど、子どもたちが力を合わせて取り組む団体競技も取り入れてほしい」といった、運動会ならではの楽しさや多様な活動を求める声が見られました。また、運営面では「競技の開始や内容についてのアナウンスをもう少し分かりやすくしてほしい」「観覧場所や動線について、もう少し案内があると助かる」といった、参観のしやすさに関するご意見もいただいています。

これらのご意見からは、運動会を単なる行事としてだけでなく、子どもたちの活躍をよりよい環境で見たい、そして全体としてさらに充実したものにしていきたいという、保護者の皆さまの温かい思いが伝わってきます。



今後は、こうしたご意見を大切に受け止めながら、現在の「見やすさ」や「子どもたちの負担軽減」といった良さを生かしつつ、内容や運営の工夫を重ね、より満足度の高い運動会となるよう検討してまいります。引き続き、皆さまにとっても、そして子どもたちにとっても、「心に残る運動会」となるよう取り組んでまいります。

5. 今年度の運動会の総括

本年度の運動会を終え、子どもたちの姿から改めて感じたのは、「子どもたちは経験の中で大きく成長する」ということです。練習の過程では、うまくいかないことや思うようにいかない場面もあったことでしょう。しかし、その一つ一つと向き合い、友だちと支え合いながら乗り越えてきたからこそ、本番ではあのように輝く姿を見せてくれたのだと思います。

ダンスやリレーの完成度だけでなく、友だちを応援する姿、励まし合う姿、最後までやり抜こうとする姿に、子どもたちの確かな成長を見ることができました。そこには、本校が大切にしている「一人一人を大切に作る心」や「共に学び、共に高まる姿」がしっかりと表れていました。また、低学年から高学年までの姿を通して、6年間の成長の道筋がはっきりと感じられる運動会でもありました。高学年の姿は下級生の目標となり、その思いが次の学年へとつながっていきます。このつながりこそが、学校の大きな力であると感じております。

本行事が無事に、そして充実した形で実施できましたのは、日頃より子どもたちを温かく見守り、支えてくださっている保護者の皆さまのご理解とご協力のおかげです。心より感謝申し上げます。また、今回のアンケートを通して、たくさんの温かいお言葉とともに、今後につながる貴重なご意見をいただきました。これらを大切に受け止め、よりよい教育活動の充実につながるよう、教職員一同、引き続き努めてまいります。

さらに、運動会終了後には、多くの保護者の皆さまが自ら進んでテントや入場門、表示物などの片付けにご協力くださいました。おかげさまで、短時間で安全に後片付けを終えることができましたこと、重ねて御礼申し上げます。

今後とも、本校の教育活動へのご理解とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。